

コスタリカ内政・外交主要事項 (2021年2月)

2021年2月の当国内政・外交主要事項を以下のとおり報告申し上げます。

【要旨】

内政

- 1 次期大統領選に向けたキリスト教社会統一党（PUSC）及び国民解放党（PLN）の動きが活発化している。
- 2 ソラーノ・スポーツ大臣が与党市民行動党（PAC）から大統領予備選に立候補するため辞任した。
- 3 大統領府データ分析機関（UPAD）スキャンダルでの大統領参考人聴取が行われた。
- 4 新スポーツ大臣にカルラ・アレマン前スポーツ大臣顧問が就任した。
- 5 外務省設置法の改正案及び公務員改革法案について職業外交官グループが反対している。
- 6 アリアス元大統領は、国民解放党（PLN）の大統領予備選に向けた戦略について、同党の元大統領であるフィゲーレス氏及びチンチージャ氏とオンライン会談を行った。

外交

検察庁汚職対策局は、公金横領と職権濫用の疑いでソラーノ外相とロドリゴ・デルガード駐中国大使を調査している。

【各論】

I 内政

1 次期大統領選に向けたキリスト教社会統一党（PUSC）及び国民解放党（PLN）の動き。

（１）7日、キリスト教社会統一党（PUSC）は全国党大会で、主に「ポピュリズムの台頭」及び与党市民行動党（PAC）の候補の大統領選三選を防ぐためとして、他党との連合案を提唱していたロドリゲス元大統領の案を56対32で否決した。同党は独自候補の擁立を目指すことになった。

（２）他方、国民解放党では、予備選に向け多数の人物が立候補準備を進めている中で、ラウラ・チンチージャ元大統領は、党内の一部の国会議員から出ている、予備選を行わず、コンセンサスによって大統領候補を選ぶべき、との動きに対して、党内分裂を防ぐ意味での意義を認めつつも、候補者同士がお互いを出し抜く状況に陥りかねず、党内民主主義の観点からも好ましくないとして、右動きを批判した。

2 ソラーノ・スポーツ大臣の辞任

ソラーノ・スポーツ大臣は、与党市民行動党（PAC）の次期大統領選挙予備選に立候補するため、5日、辞任した。

3 UPADスキャンダルでの大統領参考人聴取

(1) 10日、アルバラード大統領は、大統領府データ分析機関（UPAD）スキャンダルに関する国会のUPAD調査委員会からの質疑に答えるため、国会の場に現れた。同参考人聴取は8時間に及んだ。

(2) 大統領への質問は調査委員会の構成員である7人の議員が中心に行った。同委員会のムニョス議員（キリスト教社会統一党）は、UPADは、国民の性別をトランスジェンダーであるかまでや、細かい人種の分類まで調査しようとしたとしてプライバシーを侵害する恐れのある計画であったと非難した。これに対し大統領は、政府は一人の国民に対してもスパイ行為を行っていないと反論した。他方で、大統領は、法令の内容には全ては目を通せないとしてUPAD設置を認める政令の署名の際に内容にも目を通していなかったと述べた。

(3) また、同聴取では委員会メンバーのドラネスク議員（無所属、右派）が大統領への質疑の際に、UPAD関連で昨年2月に検察庁が保管している押収品である大統領の携帯電話のパスワードを読み上げ暴露するという一幕があった。検察庁は、事態の重大性に鑑み司法警察に調査を指示し、データの流出経緯を解明する方針。

(4) 同調査委員会は、4月30日までに報告書をまとめる方針である。他方、「ア」大統領が、UPAD創設に関しどのような善意の意図があったのか、どういった理由で国民の個人情報収集しようとしたのかという具体的な質問に答えていないとして、質疑に立った一部議員からは不満の声が上がっている。

(5) 「ア」大統領は、引き続き大統領に対する国会での聴取は憲法違反であると主張し、今回の一件を違憲性の判断を求めて憲法法廷に持ち込む構えである。なお、コスタリカ憲法は、国会での大臣への聴取は認めているが、大統領へのそれは認めていない。

(6) それにも関わらず、国会の場に現れた理由について聞かれた大統領の顧問弁護士であるゲバラ弁護士は「我々（顧問弁護士団）が委員会の要請に応じるように大統領に促した。出向かない事による批判の増幅を避けるためである」と答えた。「ゲ」弁護士は、今回の参考人聴取は大統領をつるし上げるための政治ショーに過ぎないと述べた。

(7) 他方、エルナンデス同委員会委員長（国民解放党（最大野党））は「憲法の規定により、大統領を国会（本会議）で参考人聴取することは不可能であるが、本件は調査委員会の要請であり、憲法との関係で違反ではない。例外的ではあるが、委員会の延長線上にあり、国会を聴取の場に選んだのは、新型コロナウイルス感染予防の観点から純粹にスペースを確保するためでもある」とした。

4 新スポーツ大臣にカルラ・アレマン前スポーツ大臣顧問就任

(1) 2月17日、アルバラード大統領は、カルラ・アレマン氏（49歳、女性）を新スポーツ大臣に任命した。

(2) 同新大臣は、元サッカー選手で、女子コスタリカ代表選手として中米カップの優勝経験があり、同代表の監督も務めていた。ナショナル大学体育学士号を取得しており、コスタリカ・オリンピック委員会のクロス・ファンクションチームの代表もしていた。

5 外務省設置法の改正案及び公務員改革法案について

(1) コスタリカ職業外交官協会 (Asociacion Costarricense de Diplomaticos de Carrera) は、外務省設置法の改正案及び公務員改革法案は、職業としての外交官の養成及び外交政策を弱体化させる危険があるとする声明を発表した。

(2) 外務省設置法の改正案の内容は、外相が自由裁量で50人の外交官を採用できるとするもので、同協会及び専門家は、同改正案が可決された場合、政治任用が多用されることを懸念している。また、外交から遠ざかっていた人物であっても過去の実績を買い、高いランクに就任することが出来る、という内容が含まれていることに関しても反対している。

(3) 公務員改革法案に関し、エステバン・ペンロッド同協会会長（外交政策局次長）は、現在職業外交官でなければ就けないランクが名誉職化する可能性を指摘している。また、任国でミッションを終えた大使が帰国した際、現在は局長級の職に就任することになるが、右も保証されなくなるとして懸念を表明している。

(4) なお、外務省設置法の改正案は、国会の外交委員会第一審議を全員一致で通過している。

6 アリアス元大統領とフィゲーレス氏及びチンチージャ氏とのオンライン会談

(1) 20日、アリアス元大統領はフィゲーレス、チンチージャ両元大統領と会談を行ったことを明らかにし、「元大統領の1人であるフィゲーレス氏はPLNの予備選候補予定者であるが、同氏に党内の数の有利だけでは本選に勝つことはできないと伝えた。世論調査によると現在のPLNは過去に小さな党になっている。かつては大統領選挙で（一回目投票で当選に必要な）40%の得票を得られた。数十年前には決選投票の実施は考えられなかったが現在では必須となっている」と述べ、さらに「今回の会談は、我々3人の支持を得た（コンセンサスによる）一人の統一候補者選出をさぐるためであった。統一候補者がPLNの大統領選3連敗及びそれによってもたらされる党の衰退を食い止めてくれるのである」と述べた。

(2) また、「ア」元大統領は「（ふさわしい人物として）経験とリーダーシップがある、国内外の事柄に明るく、倫理的にも優れている人物が適切だ。統一候補の擁立で、莫大な出費を抑制することが出来る」と述べ、（トンプソン国会議員を支持している）「市長グループ」とも会談の場を持ったことも明らかにした。

(3) チンチージャ元大統領は自身のツイッターで、3者会談を行ったことを明らかにし、「ア」元大統領の提案に対して「いかなる提案も党内で十分に議

論される必要がある」と書き込んだ。

Ⅱ 外交

1 公金横領と職権濫用の疑いでソラーノ外相とデルガード駐中国大使を調査

(1) ロドリゴ・デルガード駐中国大使が息子である画家のファン・マニエル・デルガード・メンデス(33歳)氏のキャリアに有利になるように、同氏のために公金を使って売り込みを行った疑いが持たれている。なお、デルガード・メンデス氏は、ロドルフォ・メンデス公共事業大臣の孫である。

(2) この不明瞭な実態は、中国在留コスタリカ人コミュニティからの告発に基づき明らかになった。告発文によると、昨年11月22日に在中国コスタリカ大使館後援で北京金台芸術館にて開催された展覧会に、ファン・マニエル・デルガード氏がデルガード大使の息子であることを隠して出展しており、中国における同氏の画家としての認知度を高めるために大使が公金を使ったのではないかとしている。また、告発文は「デ」大使の視察に夫人とファン・マニエル氏を頻繁に同行させていることも問題視している。

(3) さらに、告発文は、キャンベル副大統領が外相を兼務していた時期に副大統領の夫のバーニー・ベネガス氏の「私的旅行のために公金が使われた」と同様の不正が現在のソラーノ外相の指揮下の外務省でも行われていることに驚きを禁じ得ないとしている。

(4) 「ソ」外相は、この問題について「匿名の告発が複数のメディアにあったことのみ承知している」とし同省内の監査委員会に調査を依頼している旨述べた。